

要 約

2-ビニルピリジンのヒメダカによる96時間急性毒性試験をヒメダカ(*Oryzias latipes*)を用いて実施した。

試験は、1試験区10尾を用い、6濃度区[30.0、15.0、7.50、3.75、1.88及び0.938 mg/L(公比2.0)]及び対照区、水温 $24\pm 1^{\circ}\text{C}$ 、24時間毎に試験液の全量を交換する半止水式で行った。

その結果、試験液中の被験物質濃度は、暴露開始時では設定値に対して96.3～99.1%、終了時では91.7～94.5%であり、ほぼ設定濃度に保たれていた。したがって、以下の試験結果は設定濃度に基づいて算出した。

2-ビニルピリジンの96時間LC50(半数致死濃度)は6.48 mg/Lであった。

96時間における100%死亡最低濃度は15.0 mg/L、0%死亡最高濃度は1.88 mg/Lであった。また、本試験でのNOEC(最大無影響濃度)は0.938 mg/Lであった。